

南洋
新聞
第...
昭和十五年一月九日

分類 6.0.0. 1-6-1

第二部長

第二部長

情報部長

普通第二七號

昭和十五年一月九日

在バタヴィア
總領事 齋藤

音

外務大臣 野村 吉三 郎 殿



馬來字紙ノ「インドネシア」獨立運動ニ關スル
論調ノ件

當地馬來字紙「ブマンドンガン」社長兼主筆「タブラニ」ハ一月三日附同紙社説「年頭ノ辭」ニ於テ最近和蘭本國ノ發表セル「和蘭ノ國防既ニ完備ス」ナル記事ヲ引用シ和蘭ハ「インドネシア」ノ助力ヲ得テ今日ノ隆盛ヲ購ヒ得タル處斯クノ如ク和蘭ニ奉^仕セル「インドネシア」ハ今尙舊態依然國防ノ不完備ハ勿論總テノ政策カ不満足ノ儘放置セラレ居レルハ如何? 右ノ原因ハ總テ「インドネシア」カ

別紙添附

情
15.2.15
庶

REEL No. A-0605

アジア歴史資料センター

第一編

情報部長

加紙添附

情
15.2.15
庶

第二編

普通第二七號

昭和十五年一月九日

郵政局長

在バタヴィア
總領事 齋藤

音



外務大臣 野村 吉三郎 殿

馬來字紙ノ「インドネシア」獨立運動ニ關スル
論調ノ件

當地馬來字紙「ブマンダンガン」社長兼主筆「タブラニ」ハ一月三日附同紙社説「年頭ノ辭」ニ於テ最近和蘭本國ノ發表セル「和蘭ノ國防既ニ完備ス」ナル記事ヲ引用シ和蘭ハ「インドネシア」ノ助力ヲ得テ今日ノ隆盛ヲ購ヒ得タル處斯クノ如ク和蘭ニ奉^仕セル「インドネシア」ハ今尙舊態依然國防ノ不完備ハ勿論總テノ政策力不満足トネシア」ハ如何? 右ノ原因ハ總テ「インドネシア」カ

本信照谷票挿入先

利	類	項	目	號
0	0	0	8	1

15.2.15

REEL No. A-0605

アジア歴史資料センター

自己ノ議會ヲ有セサルニ由來スト述ヘタル後新年ハ來レトモ「インドネシア」ニハ祝福スヘキ何モノモ來ラス新年ニ際シ多數ノ「ニュース」カ齋サレタルモ「インドネシア」ノ政治的地歩ヲ改善スヘキ和蘭側ノ誠意アル「ニュース」ニハ接セス幸福ヲ齋スヘキ新年ハ「インドネシア」人ニ對シ單ニ悲シミノミヲ與ヘタリ然レ共「インドネシア」人ニシテ今日徒ニ悲嘆ニノミ暮ルルハ策ニ非ス此ノ秋コソ奮勵努力一致團結シ以テ「インドネシア」ノ自由獲得ニ邁進スヘキナリト述ヘ居タリ

右ハ相當軟キ書振ナリト雖モ若シ此ノ種記事カ其ノ他ノ政黨機關紙ニ掲載セラレタリトセハ少カラサル彈壓ヲ蒙ルヘキハ想像ニ難カラス最近「ブマンダングン」紙ノ論調ハ一方ニ於テ「インドネシア」眞正議會獲得ヲ強調スルト共ニ終始蘭印政府ノ政策ニ楯附キ從來ノ溫和ナル態度ヲ放擲シタル上漸次尖鋭化シツ、アリト認メラル

右何等御參考迄新聞切抜添付報告申進ス
本信寫送付先 在蘭、メ、ス、メ、台湾

Permanabangun

Tahoen ketjiwa?

Bonn. 2/10

BERITA belakangan dari dan tentang Nèderland membesarkan hati. Dengan diàm-diam (walapoen tidak bersifat resia) Nèderland menjiapkan diri goena mempertahankan kemerdikaannja terhadap siapapoen djoega. Tak ada oesaha jang dilopakannja. Semoea alat dipakainja. Dan kalau kita boleh pertjaja pada oeraiian oeraiian beberapa orang Belanda terkemoeka berhoebong dengan terbenamnja tahoen lama (1939), dan lahirnja tahoen baroe (1940), maka kedodoekan Nèderland pada waktoe ini ialah..... Nèderland is paraat! Mengartinja: Nèderland soedah siap!

Kita poedjikan, moga-moga oeraiian demikian itoe boekan kesombongan akan tetapi kebenaran jang berdasar keadaan jang sebetolnja. Kita akan ikoet sedih, kalau Nèderland pada masa ini beloem apalagi tidak siap, tidak paraat. Makloem se-djarah membikin Nèderland dan Indonesia mendjadi satoe, sehingga kalau Nèderland „sakit“, Indonesia tentoe akan ikoet merasainja. Dari itoe disini kita sampaikan poedjian pada mereka jang telah membikin Nèderland itoe siap, sambil berseroe bravo!

Nèderland is paraat!
Sjoeoer, beriboe sjoeoer. Sekarang kita bertanja: wat nu? Betapa sekarang? Karadjaan Nèderland terdiri atas Nèderland, Indonesia, Suriname dan Curaçao. Nèderland soedah siap. Betapa dengan bagian lainlainnja, teristimewa dengan Indonesia?

Sebeloem pertanjaan terseboet dijawab, perloe ditjatat lebih dahoe, bahwa Indonesia berdjasa besar dalam oesaha persiapan Nèderland. Karena andai kata tak ada Indonesia (soember kekajaan dan kekocatan Nèderland) kita rasa oesaha persiapan Nèderland tadi tidak akan begitoe baik seperti sekarang ini. Dari itoe Indonesia soenggoeh mempoenjaj bagian (aandeel) dalam persiapan Nèderland itoe.

Menilik hal jang sedemikian itoe boekan berkelebihan, djika kita meminta pada Nèderland, soepaja idjangan loepa pada Indonesia. Dengan lain perkataan: djoega Indonesia haroes dibikin siap, paraat dalam segala-galanja.

Kita akoel, bahwa pemerintah di sini dan di Nèderland tidak tinggal diam. Bermatjam-matjam oesaha telah dilakoekan oentoek menolak bahaya, jang moengkin menimpa pada Indonesia. Kita peringatkan kegiatan pemerintah dalam mendjaga, soepaja rakjat ramai tidak kekoerangan makan, soepaja harga barang-barang tidak naik tidak karoean dsb-nja. Tjoema sadja, kesemoeanja itoe djoeh dari tjoekoep, apalagi memoeaskan Nèderland dapat menjiapkan diri karena ia negeri merdika, koesasa sepenoehnja oentoek mengambil tindakan seperloenja, mempoenjaj parlement. Dalam oesahanja ia tidak dipengaroehi oleh kechwawitiran, bahwa lain negeri tidak akan menjetoedjoenja. Beda dengan Indonesia. Dalam segala-galanja Indonesia itoe tergantoeng dan bergantoeng pada Nèderland, sehingga ia tidak leoesa dalam oesaha persiapannja.

Sepandjang faham kita, Indonesia nanja dapat dibikin siap, djika ia soedah berdiri sendiri, walapoen tidak memoetoeskan perhoeboengan dengan Nèderland. Dari itoe kita merasa ketjiwa, bahwa tahoen baroe sekarang ini tidak membawa „kabar baik“ bagi Indonesia. Kabar betoel banjak, tetapi diantaranja tidak ada jang berisi kesoesdian Nèderland oentoek memperbaiki kedodoekan politik dari Indonesia.

Oleh karena itoe tahoen baroe sekarang ini membawa ketjiwa jang sebesar-besarnja bagi Indonesia terhadap Nèderland.

Kita poedjikan, moga-moga gerakan kebangsaan sanggoep memakal keketjiwaan ini oentoek memperbaiki diri ke-arah persatoean jang lebih kekal.

M. T.

歐亞局長 第三課長

(普通第一七一號)

昭和十五年三月十八日

在バタヴィア

總領事 齋藤 音



外務大臣 有田 八郎 殿

一九四〇年度蘭領印度豫算ニ關スル件

一九四〇年度蘭印豫算ハ先般閉會トナレル國民參議會ニ於テ可決
ヲ見タル臨時追加豫算ヲ加ヘ結局收入六億七百四十八萬九千三百
五十九盾支出六億七千五百八十一萬五千三百九十八盾不足六千八
百三十二萬六千三十九盾トナレリ内譯左ノ如シ

記

支出之部 (盾)	當初見積	追加	計
經常費	五七四一八六二四四	一七三六六一一	五八八五九二二七五

財政

(通)

大藏金庫
陸、海、商、

歐 15.4.15

臨時費	七八六四七四〇七	一、二四五二三六	八九八九二六四三
總計	六五二八三三、六五一	二、二九八、七四七	六七五八一五三九八
收入之部			
經常費	五四五九一四〇八	一、二八二、五四一	五五八七三五六二六
臨時費	四八七五三、七三三	ナシ	四八七五三、七三三
總計	五九四六六七、八一八	一、二八二、五四一	六〇七四八九三五九
不足			六八三二六〇三九

(尙經常部ニ於ケル不足ハ二七、一八七、二九盾、臨時費四八七五、三、七三三盾ナリ)

(本信寫送付先 在蘭、メ、ス、メ)

局長

第三課長

昭和十五年四月拾五日接受

15.4.15

普通第一七二號

昭和十五年三月十八日

在バタヴィア

總領事 齋藤

音

次



外務大臣 有田 八郎 殿

高張、
倭陸、招へ、

(通す)

キヤク

PT

夫と返款

眞正議會^{定期}成委員會ノ擴大強化ニ關スル件
今般土人政黨聯盟略稱「ガビ」(Gaboengan Politiek
Indonesia) 事務當局ハ各地ノ眞正議會期成運動協力者ニ對シ
感謝ノ意ヲ表スルト共ニ本件運動ノ目的貫徹方徳滲シ現在各地ニ
設置セラレツツアル議會期成委員會 (Comite Parlement Indonesia)
(現在百二十)ノ擴大強化ヲ希望セリ
尙「ガビ」ノ發表ニ依レハ右委員會構成要領左ノ如シ

記

- (一) 設立 「インドネシア」國民會議ノ支部トシテ之ヲ設置ス
 - (二) 業務 主トシテ眞正議會期成運動宣傳ニ従事ス但シ總テ「ガビ」ノ指令ニ基キ之ヲ行フモノトス
 - (三) 組織 本委員會ハ最少二十人ヨリ成リ會長、書記及會計ハ各委員ノ互選トス
「ガビ」加盟政黨ノ支部カ設置セラレ居ル地區ニ於テハ本委員會構成人員中ニ右支部人員ヲ含ムモノトス
寄附其ノ他ヲ以テ之ニ當ツ
但シ一盾以上ノ寄附ニ對シテハ其ノ二五%ハ之ヲ「ガビ」本部ニ交付スルモノトス
 - (四) 資金 本委員會ハ「ガビ」ノ認可ヲ要ス
 - (五) 認可 本委員會ハ「ガビ」ノ認可ヲ要ス
- 右報告申進ス
(本信寫送付先 在蘭、メ、ス、メ)

昭和 〃 年 〃 月 〃 日

在スラバヤ

領事 桑折鐵次郎

外務大臣 有田八郎殿

「ハリンドラ」党ノ巡回宣傳演説会ニ関スル件

本政党内「ハリンドラ」ハ今般全党宣傳部長 Saekandjo
Mitsopbanoto ヲ東部爪哇及「マツラ」島各地ニ派シ全党
政策ノ宣傳演説ヲ行ハシムル計劃ヲ樹テタル趣ナル
處ニテ七日ノ當地土誌紙「スワラウムム」ノ報道ニ依レハ右
宣傳部長ハ二十六日当地ニ来リ其ノ巡回宣傳演説
ノ一瞥ヲ舉ケ多數聴衆ヲ前ニ議會開設問題

在スラバヤ日本領事館

16

15 1931 125

貿易社会問題等ニ付熟辯ヲ採ヘル由ナルカ其ノ演
説ノ要旨存シ如シ

一、議會開設問題

「インドネシア」ノ國會開設實現ノ爲ニハ先ツ全「イン
ドネシア」ノ完全ナル一致團結ヲ必要トス

一、戰術巡洋艦建艦問題

本件建艦決定ノ場合蘭本國カ其ノ建艦費用
一却負担ヲ蘭印ニ求ムルトキ吾人トシテハ之ヲ拒否
スヘキ理由ナシ唯吾人「インドネシア」ノ希望スル處ハ
本國印海軍擴張ニ關所シ「インドネシア」モ單ナル
水兵ノミナラス士官ニ採用若クハ昇級スルノ機会ヲ
與ヘラレシコトナリ

一、社会問題

在スラバヤ日本領事館

元來蘭印ニ樹ク和蘭人ハ金儲ヲ主タル目的トシテ
本國ヨリ復來シ來ルモノニシテ彼等ハ蘭印ニ於テ充分
ノ金ヲ獲得スルヤ否ヤ本國ニ歸還ス「インドネシア」ハ
蘭印繁榮ノ見地ヨリ是等膠料ニ義、和蘭人ノ
地位ヲ吾人ノ手ニ收メサルヘカラス而シテ之カ爲ニハ若キ
「インドネシア」カ外國ニ渡リ其ノ教育ヲ受クルコト
必要ナリ

一 貿易問題

蘭印從來ノ貿易關係ハ歐洲戰爭勃發後ニヨリ一變
セリ蘭印ハ從來歐洲ヨリ輸入シ居タル必需品資ヲ
今復ハ之ヲ太平洋諸國ニ求メサルヲ得ザルコトナレリ
而シテ太平洋諸國中吾人ニ其ノ必要トスル物資ヲ
供給シ得ル國ハ日本ナリ蘭印トシテハ此ノ矣ヲ考

在スラバヤ日本領事館

慮ニ入レ歐洲戰爭勃發後ノ新事態ニ即スル新方
針ヲ樹立スヘキナリ

右何等河考考立報告申達ス
本信寫送付先 バ、メ、メ、

在スラバヤ日本領事館

第三課長

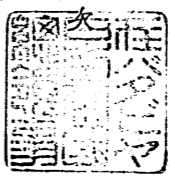
(普通第一八二號)

昭和十五年三月二十一日

在バタヴィア

總領事 齋藤 音

外務大臣 有田 八郎 殿



15.4.23

課書文 15.4.22 受

蘭印土人ノ獨立運動ニ關スル件

最近蘭印土人政黨カ頻ニ現在ノ國民參議會ヲ改造シ眞ノ議會開設ノ必要ヲ叫ビ居ルコトハ累次報告ノ通りナル處最近國民參議會ニ於テ土人議員「ウイウオエ」(Wiwoho) 「インドネシア、イسلام」(Islam) 黨首)「スカワテ」(Soekawati) 政經黨員)及「カシモ」(Kasimo) 「インドネシア」加特力黨)ノ三名ヨリ左記ノ通り和蘭國王ニ次キ最高ノ機關ニシテ蘭印ノ代表者ヲモ網羅スル和蘭國參議員ノ設置、蘭印國民參議會ノ權限擴大並ニ蘭印各省

方必、
俟陸、
(15)

改、
キ

長官ヲシテ參議會ニ責任ヲ負ハシムヘントノ決議案ヲ提出シ土人社會ノ注目ヲ引キタリ

國民參議會ハ

- (一) 一九二二年ノ憲法改正ノ趣旨タリシ蘭領印度ノ政治的建設事業ハ引續キ之カ實行ヲ計ルヘキモノナルコト
- (二) 右建設ハ和蘭國家内ニ於ケル蘭領印度ノ獨立ニ導クヘキモノナルコト
- (三) 就中現在ノ情勢ハ右建設カ正當ナル方法ニ依リ充分ナル速度ヲ以テ行ハレ居ルヤ否ヤノ檢討ヲ余儀ナクセシムルコト
- (四) 特ニ土人社會各層ノ進歩ノ事實土人政黨カ蘭印政府トノ協調ノ希望次第ニ強クナリ並ニ蘭印カ蘭本國ト協調シントスル希望次第ニ増大セルコト且ハ又國際情勢ノ險惡ハ右建設ノ急速化ヲ必要ナラシムルコト
- (五) 一層ノ改革ヘノ希望ハ之カ具体案ニ付テ各種々意見ノ相違ハ

アルモ蘭印社會ノ殆ント全層カ抱ク所ニシテ自然的且合法的ナルモノト看做サレ居ルコト

(六)前記目的ノ實現ノ爲ニハ特ニ左ノ事項ヲ望マシトナスコト

(イ)和蘭國參議會 (Rijksraad) ノ設置

右ハ國王ニ次イテ最高ノ國家機關タルヘク然シテ右ニハ四領域カ其ノ重要性ニ伴ヒ同等ニ代表セラル、コトヲ要ス

(ロ)蘭印國民參議會議員數及權限ヲ増大シ且各省長官ハ大臣トシテ參議會ニ對シ責任ヲ負フコト

(七)右ニ伴ヒ國王ノ代表及最高ノ中央機關トシテノ總督ノ地位及最高ノ諮問機關トシテノ蘭印評議院ノ地位ヲ變更スルノ必要ナルヘキコトヲ望ム

ヲ思ヒ政府ヨリ和蘭政府ニ對シ之カ實現方ニ努メラレンコトヲ希望ス

說明

前述ノ如キ政治的改革ニハ事前ニ廣範圍ニ亘リ且充分ナル調査ヲ必要トシ現行法制特ニ憲法及蘭印統治法ノ改正ヲ必要トスルニ至ルヘシ

右ノ如キ調査ハ之ヲ最モ能率的ニシテ且良好ナル結果ニ到達セシムルカ爲ニハ國家的ノ一委員會ヲシテ爲サシムルコト適當ニシテ然モ右委員會ニ於テハ土人カ完全ニ代表セラル、コトヲ要ス

而シテ右委員會ノ調査ハ一定ノ期限内ニ終了スルコト望マシ提案者側ニ於テハ蘭印政府カ曩ニ國民參議會ニ於テ爲セル言明及一九四〇年度蘭印豫算案ニ關スル蘭本國下院ニ於ケル植民大臣ノ回答ニ依リ其ノ求ムル政治的改革及委員會ノ調査ニ對シ蘭印政府及蘭本國政府共ニ拒否的態度ヲ採ルコトヲ承知シ居レルモ本決議案カ充分ニ研究セラル、ニ於テハ議員連並ニ蘭印政府ヲシテ其ノ見解ノ正シキコトヲ認識セシメ得ヘシト信ス

尙本決議案ニ於テハ政治的ナル語ハ廣キ意味ニ於テ使用シタルモ

調査
05

(分類 160.0.1-6-1)

ノニシテ政治的ナルヲミナラス經濟的社會的及知的の方面ニモ亘ル
モノナリ
右何等御參考迄報告申進ス
(本信寫送付先 在蘭、メ、ス、メ、台灣)

歐亞局長 第三課長

名 簿
滿外
南洋
總務
課
長
收
印
B

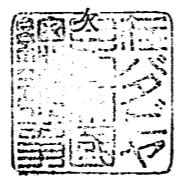
普通第一八三號

昭和十五年三月二十一日

在バタヴィア

總領事 齋藤

音



外務大臣 有田 八郎 殿

「インドネシア」學生聯盟年次大會ニ關スル件
今般當地土語紙ノ報スル所ニ依レハ去ル三月十日當「バタヴィア」
市ニ於テ開催セラレタル「インドネシア」學生聯盟ノ年次大會ハ
多數ノ聽衆參集頗ル盛大ヲ極メタル趣ナルカ右聯盟（設立以來既
ニ十四年目下「インドネシア」國民會議ニ加盟シ居レリ）ハ政黨
ニハ非サルモ從來ヨリ政治的領域ニ興味ヲ抱キ居リ同日會場壁間
ニモ（一）大「インドネシア」ハ議會ヲ有スル「インドネシア」ナル
ヲ要ス（二）「インドネシア」婦人ハ眞正議會期成運動ニ協力セヨ（三）

16.4.23

REEL No. A-0605

アジア歴史資料センター

新聞並ニ各種團體ハ議會獲得ヲ目的トシ一大協力戦線ヲ形成セヨ
等々政策ヲ加味セル「スローガン」ヲ掲ケ右聯盟幹部及贊助者ハ
同大會ニ於テ左記内容ノ演説ヲ試ミタリ
右報告申進ス

記

一、本聯盟所屬學生ノ有スヘキ二大「モットー」ハ祖國愛並ニ祖國
人ニ對スル愛ナリ吾人ハ「インドネシア」國民ノ進歩並ニ幸福
ノ爲行動シ更ニ國民ノ利益ト見做サル、モノハ總テ之ヲ實行ニ
移スヘシ云々

二、各指導者ト國民間ニハ理解アル協力ノ存在ヲ必要トスル旨ヲ強
調ス

三、「サティマン」

「イスラム」大學設立計畫ヲ説明シ目下當領ニ於テ「イスラム
教ハ「キリスト」教ノ壓迫ヲ受ケツ、アリ即チ後者ハ和蘭ニ依
リ財政的援助ノミナラス多數牧師ノ派遣等ヲモ受ケ居リ從テ多

數ノ「イスラム」教徒カ「キリスト」教徒ニ變リツ、アリ他面現
在回教傳導師其ノ他ハ知識教育方面ニ於テ缺クル所アリ之カ爲彼
等ハ「インドネシア」人知識階級トハ全ク接觸ヲ保チ得ス茲ニ「
イスラム」大學設立ノ所以存スヘシ云々

四、「タブラニ」(「ブマン、ダンガン」紙社長兼主筆)

新聞及「ラヂオ」カ國民生活ニ不可缺ノ存在ナルヲ力説シタル後
現在各新聞紙ニ對シ行ハレ居ル政府ノ檢閲ハ新聞ニトリ極メテ不
利ナルモノナリト述ヘ轉シテ「インドネシア」兵士カ土語紙閱覽
ヲ禁止セラレ居ルヲ不當トシ更ニ當領ノ教育カ和蘭語ヲ以テ基礎
トシ居ル關係上「インドネシア」人中ニハ土語紙ヨリモ寧ロ蘭字
紙ヲ讀ムモノ多キ事實ヲ嘆シタリ

五、「アビクスノ」(「サレカツト、バルタイ、イスラム、インド
ネシア」黨首「ガビ」委員)

和蘭植相カ第二院ニ於テ「インドネシア」ニ對スル眞正議會附與
ヲ拒絕セル件ニ言及目下「ガビ」ニ於テ之カ資料ヲ蒐集中ナル旨

ヲ説明シタル後和蘭議會ニ對シ此ノ種勳議カ提出セララル、毎ニ「
インドネシア」國民カ未タ自治ノ資格ヲ有セス即チ未タニ目覺メ
サル如ク述ヘラル、處「インドネシア」國民ノ睡眠狀況ハ如何ニ
シテ齎セラレタルモノナリヤ
右ハ決シテ正常且自然ナル睡眠ニ非ス即チ人工的ニ斯クセシメラ
レタルモノナリ之カ覺醒方法ハ即チ「インドネシア」人ニ對スル
眞正議會付與ニアリ云々
本信寫送付先 在蘭、メ、ス、メ

B

警察局長 第三課
特高外秘 第四六一號

昭和十五年四月二十二日

群馬縣知事

警察部 長 英

昭和十五年四月廿四日 接受

歐亞局長

内務大臣 兒玉 秀雄 殿
外務大臣 有田 八郎 殿
(各 警察 署 長 殿)

蘭領東印度出稼者ノ言動ニ関スル件
本籍 管下高崎市龍見所ニ番地
往所 蘭領東印度爪哇島シトボント市
右者ハ約三十年前ヨリ 蘭領東印度爪哇島シトボ
ント市ニ於テ雜貨商ヲ營ミ居ルモノナルガ本年
一月眼病治療ノ爲取省シ本月二十六日神戸出帆
渡航予定ニアルカ同地事情ニ就ト所轄警察署員

A.6.0.0.1-6-1

右及申(通)報候也
記

蘭印地方ノ獨立運動ニ就テ
爪哇島ハインドシニ了人種ノ土人ガ大部分ヲ占
メテ居リ之等ノ人種ガ獨立ノ氣分ニ燃エテ居ル
コトハ事無ク
ソシテ獨立運動ニ最モ熱心ダツタノガストモ博
士ト言フ醫者テ凡有警戒調ヲ敏速ニ潜ツテ活躍
シテ居タグ途チ死シマツタソレニ代ワテ
運動ヲ續ナテ居ル人モアルガストモサンノ様ニ
熱心ナリ
和蘭ノ殖民地政策ハ當初ニ於テ失敗シタソレハ
土民ニ對シテ和蘭式ノ教育ヲ施シタ事ヲ知階級
ノ者ガ多クナルニ從テ今度ハ其ノ知識階級ニ高給
ヲ未タソレニ醒メテ今度ハ其ノ知識階級ニ高給
ヲ坤ソテ官吏ニ登用シテ居ルソレガ為ニ上層部

記
蘭印地方ノ獨立運動ニ就テ
爪哇島ハインドシニ了人種ノ土人ガ大部分ヲ占
メテ居リ之等ノ人種ガ獨立ノ氣分ニ燃エテ居ル
コトハ事無ク
ソシテ獨立運動ニ最モ熱心ダツタノガストモ博
士ト言フ醫者テ凡有警戒調ヲ敏速ニ潜ツテ活躍
シテ居タグ途チ死シマツタソレニ代ワテ
運動ヲ續ナテ居ル人モアルガストモサンノ様ニ
熱心ナリ
和蘭ノ殖民地政策ハ當初ニ於テ失敗シタソレハ
土民ニ對シテ和蘭式ノ教育ヲ施シタ事ヲ知階級
ノ者ガ多クナルニ從テ今度ハ其ノ知識階級ニ高給
ヲ未タソレニ醒メテ今度ハ其ノ知識階級ニ高給
ヲ坤ソテ官吏ニ登用シテ居ルソレガ為ニ上層部

一 和蘭ニ好意ヲ持ツテ居ル
 二 蘭印地方ニ對シテ日威情ニ花テ
 三 人ニ良ク馴レシメテ人種ハ非常ニ親日
 四 凡レ島ノイノドシニ人種ハ非常ニ親日
 五 蘭ニ懷柔サレタ官吏ハ親蘭派
 六 對スル警戒ハ非常ニ嚴重テモ親日
 七 見エルト首ニナル私ガ今度ノ般省ニ際
 八 行シナカト言フト般ルト親日派ト見
 九 ナルカテ嫌カト断ツタ
 一〇 日本ノ南方政策ニ對スル居留民ノ意嚮
 一一 日本ノ南方政策ハナマヌルイ感ガアル
 一二 日本ノ早ク海軍ノ實カ上陸カ予想ガ
 一三 テアルハ其ノ後避々トシテ居ル島民ノ各層ヲ通シ
 一四 シテ居留民ノ實カ上陸カアルカウト考ヘ又ソレニ備
 一五 前ニモ申上ケタ様ニ本年一月ガラ各國居留民ハ自
 一六 國ノ國旗ヲ掲スルコトヲ禁止サレタ以前收地カ
 一七 ラ來タバカリノ店員ガ祭日ニ日本ノ國旗ノミヲ掲
 一八 ケタ處直ク官憲カヤソテ來テ此所ハ何處ノ領土ダ
 一九 ト思フト詰問サレタ西國ノ國旗ヲ掲スル事ハ普
 二〇 通ト考ヘ日本ノ國旗ヲ掲ケラレ一方船ニ和蘭ノ國旗
 二一 ニシテ日本ノ國旗ヲ掲ケテ來ラレナイト言フコトニ
 二二 ルト私共ハ大ナル侮辱ヲ蒙ラレナイト言フコトニ
 二三 斯ル問題ハ外交問題トシテ堂々交渉シテ解決
 二四 思フテ居留民トモテ堂々交渉シテ解決
 二五 然レ國旗掲揚ヲ許サレテ居留民トモテ堂々交渉
 二六 交渉カ干温クイ氣カスル私モ本月二十六日ニ奴地ヲ
 二七 出卷シテ行クガ又色々通信致シマス
 二八 以上

上候及蘭印政府ト「リオウ」土候同ノ政治協定文書ニ（馬末文）
 一應了済政ニハ處在ハ尙ニ有益ナル者各資料ト認メラシム
 然ルニ右公使中ニハ資料ノ出所及入手経路等ニ就テハ何等
 記載ナキ處（總カニ所屬文書ニ一西末人ヨリ日本人「ヒタカ」某ニ
 宛テル書簡ニヨリ其「ヒタカ」某カ該馬末人ヨリ入手セルモノト推察
 致サル）是之ハ同文獻ノ確實性ヲ知ル上ニ是非尙尙知政度ヤ点
 ニ有之ルニ就テハ若シ貴方ニ於テ右諸点並ニ「ヒタカ」某ノ身分
 及本件ニ關シ同人ト關係アリト認メラル、該馬末人ト「リオウ」

公 信 案

外 務 省

（本標準規格 B5）

發信用		執務用	
主信	/	/	2
附屬	甲		
	乙		
	丙		
	丁		
備考 大指 16.0.0 1-6-1			

文書課長	文書課發送 昭和拾五年四月四日發送済	淨書	正校（原稿）	（淨書）
主 管	歐亞局長	任 主	第三課長	昭和十五年四月廿二日起草
機 密	第三機密	號	昭和拾五年四月廿二日附	附屬
受 信 人 名	在上海帝國總領館 案件	發 信 人 名	歐亞局長	第三課長
件 名	紡績聯合會理事長 岡本 一策	記 録 件 名	請外名由給予諸君	南 洋 房 館 手 帳
東印支會北「リオウ」土候同ノ條約文ニ關スル件 相然貴殿益々事情詳之取弄加シ 陳者農ニ貴殿「リカポール」在職中昭和十四年七月廿二日 附信「リ」以下有宛支送附相成以東印支會北「リオウ」				
公 信 案	外 務 省			

23 87

主信	發信用	執務用	4
附	甲	乙	4
丙			
丁			
備考	A.6.0.0.1-6-1		

機密

昭和十五年五月七日

公 信 案	本信送付先 海軍省軍務局長 陸軍省軍務局長	報告有リタルニ付何等御参考迄ニ送付ス	本件ニ関シ今般在リテ有テモ有藤總領事ヨリ別紙字ノ通	名 件 蘭印土人ノ獨立運動ニ関スル件	受 信 人 名	信 件 名	主 管	主 任	日 附	日 附	日 附
					海軍省阿部軍務局長 陸軍省武藤軍務局長 拓務省森部拓務局長	歐三 普通 適合 第一 二〇七〇 號	昭 和 拾 五 年 五 月 六 日	昭 和 拾 五 年 五 月 六 日	昭 和 十 五 年 五 月 二 日	昭 和 十 五 年 五 月 二 日	
外 務 省					西 歐 亞 局 長	諸 外 國 内 政 手 係 務 局 長 蘭 印 局 長	主 任 第 三 課 長	主 任 第 三 課 長	昭 和 十 五 年 五 月 二 日	昭 和 十 五 年 五 月 二 日	昭 和 十 五 年 五 月 二 日

文書課長



別紙



公 信 案	外 務 省
<p>上候トノ続柄等ニ就テ申承知アラハ申付テ折返シテ 詳報相煩ハシム此致申依程申込候 敬具</p>	

(日本標準規格 B5)

(13.6 1)

6 98

記

REEL No. A-0605

アジア歴史資料センター

發信用		執務用	
主信	6	1	2
附	6	1	2
甲			
乙			
丙			
丁			
備考	分類 16.0.0.1-6-1		

通商局第六局長

(受)

文書課長

文書課發送 昭和十五年五月拾日 發送済

主 歐亞局長

管 第三課長

任 船和拾五 五月九日 附屬 有

正校 (原稿) 淨書

昭和十五年 五月 八 日起

別紙

受信人	大藏省相田理財局長 海軍省所部軍務局長 陸軍省武藤軍務局長 拓務省赤部拓務局長 南工省稚名總務局長 企書院沼田才一部長
發信人	西政臣局長
名件録記	此の由緒不詳物多 南工省印 馬場多良

名 件 一九四〇年度蘭領印度豫算ニ関スル件

公 信 案

外 務 省

(13.6 4)

9 43

拓務省拓務局長

(別紙) バタヴィア末普通カハニロ字作成添付ノコト

公 信 案

外 務 省

(日本標準規格 B5)

主信	3	1	4
附	3	1	4
甲			
乙			
丙			
丁			
備考	分類	16.0.0.	16-1

藤

閣下第六課長

公 信 案

一通報告有リタルニ付何等御参考迄茲ニ送付ス

本件ニ関シ今般在バタヴィヤ有藤總領事ヨリ別紙寫

眞正議會期成委員會ノ拡大強化ニ関スル件

受 信 人 名
海軍省所部軍務局長
陸軍省武藤軍務局長
拓務省森部拓務局長

主 管
歐亞局長
第三課長

文書課發 送昭和拾五年五月拾日 發送済 淨書

正校(原稿) 淨書
昭和十五年五月七日

別紙

(13.6 4)

9 50

公 信 案

外 務 省

寫作成添付ノコト

(別紙昭和十五年三月十八日附在「バタヴィヤ」總領事來信第一七一號

拓務省拓務局長 南支那總務局長 企画院才一部長

本信送付先 大藏省理財局長 海軍省軍務局長 陸軍省軍務局長

公	信	案	寫 作 成 添 付 ノ コ ト	(別紙昭和十五年三月十八日附在「バタヴィア」總領事來信第百一七二號)	拓務省拓務局長	本 信 送 付 先 海軍省軍務局長 陸軍省軍務局長	外	務	省

源著附書
原書ハ
A7118
8
27

馬

分類 A6001-6-1

昭和15 一四〇四五 暗 バタヴィア 五月二十一日後發
本 省 二十二日附着

有田外務大臣 齊藤總領事

第三八七號

今次獨逸軍和蘭侵入ノ傳ヘラルルヤ蘭人側カ極度ニ興奮シタルニ反シ母方タル土人ニ血ノ繋リ深キ小數ノ「ハーフ、キヤスト」ヲ含ム一般土人民衆ハ極メテ冷淡ナル態度ヲ持シ居タルカ他面新聞記者政黨人其ノ他智識階級ノ間ニ於テハ累次既報ノ通り相當機微ナル動キアリ印歐黨土人官吏同盟等現在ノ政治機構ノ下ニ利益ヲ受ケ居ル一部御用政治家軍人官吏等カ和蘭ニ忠誠ヲ誓ヘルヲ除キ他ノ「インテリ」ノ大部分ハ寧ロ和蘭ノ危機ニ祝盃ヲ舉ケ此ノ機ヲ逸セス「インドネシア」ノ完全獨立ト迄ハ行カストモ真正議會ノ獲得等何カ土人側ノ利益ヲ増進セントノ希望ヲ有シ居ルコトハ土人新聞ノ論調其ノ他ノ聞込ニ依リ明カニ看取セラルル然ルニ一方當領政府當局ノ土人

外務省

(日本標準規格 B5)

ノ言論集會等ニ對スル彈壓ノ一層ノ強化（往電第三六一號並第三〇五號參照）ハ三百年來白人ノ壓制下ニ馴致セラレタル一般土人民衆ノ氣力ト相俟ツテ今直ニ彼等カ自力ヲ以テ更生ノ途ヲ開クコトハ到底豫想セラレサル所ナルモ何等外力ノ當領ニ及フコト又ハ印度獨立ノ如キ外部情勢ノ大變化アランカ之ヲ切掛ケニ事ヲ起シ民族ノ解放ヲ計ラントノ根強キ議論カ潛行的ニ行ハレ居ルハ事實ニシテ日本ノ南進ニ對スル希望的觀測カ蘭人側並ニ一般華僑間ニ於ケル恐怖的憶測ト相俟ツテ目下一般土人間ニ此ノ種流言蜚語ノ盛ニ行ハレ居ル現狀ナリ

要スルニ長年蘭人ノ政治的壓迫ト華僑ノ經濟的支配下ニ呻吟スル土人民衆トシテハ現狀ノ改變ハ彼等ニ何等カノ幸福ヲ齎スモノナリトノ信念ヲ有スルコトハ否ミ難ク日本ノ南進ハ彼等ノ寧ろ歡迎スル所ニシテ從テ最近ノ蘭印政府ノ體面態度ノ好轉振リニ鑑ミ結局日本カ蘭印側ニ拜ミ倒サレテ簡單ニ妥協スルカ如キコトアルヲ最も虞レ居

(日本標準規格B5)

ルモノト認ラル（了）

(日本標準規格B5)

原簿
A700813
ニリ

(分類 A6001-6-1)

昭和15 一七一九四 平 バタヴィア 六月十六日後發
本 省 十六日夜着

有田外務大臣 齋藤總領事

第五〇三號ノ一

十五日國民參議會開會式ニ於ケル總督演說要旨左ノ通
蘭領印度ノ國際的地位ニハ五月十日以來和蘭王國ノ一部トシテ獨逸
ト戰爭狀態ニ入りタル外變更無シ
獨逸進入ノ報道接到直後所要ノ獨逸臣民並ニ和蘭臣民ノ抑留ニ着手
セル處關係當局ノ用意整ヒ居タル爲抑留措置ハ順調取運ヒタリ多數
人ノ宿泊並ニ警備ニ困難ヲ伴ヒ居ルニ拘ラス抑留者ノ取扱ヲ順當ナ
ラシムル様努力シツツアリ現在臨時ニ *Hyacinth* 其ノ他ニ收容セラ
レアル外國人男子ヲ收容スヘク新ニ收容所ヲ建造スル筈(以下五月
十日以後ニ取りタル各種措置列敘ス)
蘭印盾ハ今ヤ獨立ノ爲替價格ヲ構成スルニ至レル處輸出超過ニ依リ

外務省

(日本標準規格B5)

占ムル其ノ強力ナル地位ハ資本利子恩給其ノ他ノ和蘭向支拂カ不可
能トナリタルノ事實ニ依リ一層強化セラレ「スターリングフラン
ロツク」トノ協力ヲ特ニ支障ヲ來スコト無ク非ニ對スル相場ハ維持
セラレ得ルヲ得タリ蘭印ハ「スターリングフランプロツク」及中立
國ニ對シ輸出超過ノ地位ニアル處此ノ「スターリングフランプロツ
ク」ニ對スル輸出超過ヲ通シ吾人ハ聯盟國ヲ金錢的ニ援助シ得ヘシ
船舶ノ通スル國トノ海運ノ調整ハ完了ニ近付キツツアリ
非歐洲向ノ船腹ハ充分ナリト期待セラレ歐洲向海運ハ聯合國ト協力
シテ定メラルル筈ニシテ獨逸船十八隻丁抹船二隻カ我商船隊ニ加ハ
リタルハ注目ニ値ヒス
敵國及敵國臣民トノ交通ハ切斷セラレタルガ敵性ヲ有スル領域ヲ終
局ノ仕向地トスル輸出ノ取締ハ聯盟國ト協力シテ之ヲ行ヒ居レリ

(續ク)

外務省

(日本標準規格B5)

昭和15 一七一九二 平 本 省 六月十六日 後發 十六日夜着 齋藤總領事

有田外務大臣

第五〇三號ノ二

或種ノ蘭印重要物産ニ對スル日米ノ需要ハ増大ヲ來シタリ歐洲特ニ
聯盟國向輸出ハ維持セラルヘキモ和蘭本國ノ參戰ト共ニ蘭印ハ輸出
市場ノ二割乃至三割五分ヲ失ヒ特ニ「ポブラ」「バームオイル」珈
琲及煙草ニ打撃ヲ受ケタル處此種打撃ヲ補フヘク目下措置ヲ講シツ
ツアリ
輸入ニ關シテハ多數商品ヲ和蘭以外ノ國ヨリ買付ケルノ要アル處左
シタル支障無クシテ之レヲ行ヒ得ヘキモノト豫想セラレ要スルニ蘭
印ハ經濟的安定性ヲ維持シ戰爭遂行ニ多大ノ貢獻ヲ爲シ得ヘキモノ
ト期待セラルル次第ナリ

(日本標準規格B5)

外 務 省

參議會開會ノ日ニ提出スル筈ノ一九四一年度豫算案ニ關シテハ五月
上旬既ニ要綱決定シ居リ經常部臨時部夫々二千百萬盾、四千百萬盾
ノ赤字ヲ出ス筈ナリシカ情勢ノ變更ニ依リ和蘭本國ノ資本等ニ倚ル
コト不可能トナリ又ハ國防費其ノ他ノ新規支出モ必要トナリ茲ニ豫
算ノ再編成ヲ餘儀ナクセラレ本日ハ一九四一年度豫算案ヲ提出シ得
サルニ至レリ(了)

(日本標準規格B5)

外 務 省

REEL No. A-0605

アジア歴史資料センター

照合票

合第 三四〇號

昭和十五年七月廿五日

發信者

西政軍局長

受信者

阿部 海軍事務局長
武藤 陸軍審判局長

件名

一九四〇年度蘭印陸軍追加豫算案關係件

原書ハ左記ニ在リ

記

(分類 A.B.O. 0.1-6-1)

C門ノ類ノ項ノ目ノノ號

蘭國軍事關係雜件

記録
件名

歐亞局長

第三課長

昭和十五年八月廿五日接受

普通第五一四號

昭和十五年七月三十一日

在バタヴィア

總領事 齋藤

音

次

外務大臣 松岡 洋 右 殿

國民參議會ニ於ケル陸軍追加豫算案討議
模様ニ關スル件

國民參議會ハ二十二日、「ヨシクマン」議長司會ノ下ニ開會
員ハ政府提出ノ陸軍第五次（兵團經費及武器費）及第六次（特
別情勢ニ對處スル經費）追加豫算案ヲ組上ニ現下國際情勢ニ基
ク蘭印ノ國防措置ニ付眞摯ナル討議ヲ行ヒタルカ右ニ關スル諸
議員ノ意見要旨御參考迄左ノ通り報告申進ス

記

15. 9. 2.

24

陸海
務

「スピット」(歐洲人労働組合議員)

N S B 黨ニ對スル見解ハ政府ト大衆トノ間ニ多大ノ相違アリ予ハ
向黨ノ援助者ナリシ者ニ後備兵指揮權ヲ付與シ得ルモノトハ考ヘ
居ラス斯カル人物ヨリハ宜敷ク指導的職務ヲ剝脫スヘキナリ現在
後備兵幹部中ニ N S B 黨「シンバル」ナル理由ニテ既ニ民間ニ於テ
敵首セラレタルモノヲ採用シ居ル事實ハ(何如)

簡(中華會)

在倫敦和蘭政府内閣力總テ其ノ任務ニ關シ信頼シ得ヘキ人物ヨリ
構成サレ居ルカハ熟考ノ要アリ予ハ在倫敦和蘭政府ニ對シ直接
内閣構成ヲ變更スルノ意志アリヤ若クハ現在ノ政府主腦部ニ對シ
顧問トシテ専門家ヲ配置スルノ要ナキヤ」ノ質問ヲナスモノナリ
「フアン、ヘルスデインゲン」(印歐黨)

大衆ノ精神力並ニ準備ニ關シテハ高度ノ信頼ヲ置キ得ス多數ノモ
ノハ祖國ノ救濟者ナリト自認シ居ルモ其ノ信頼ノ立證タルヤ甚タ
乏シ(中略)現役、豫後備ノ裝備ニ付多クノ疑問アリ現在實用ニ

適セサル瓦斯「マスク」ノ存在シ居ルコト並ニ銃カ一八九六年制
ノモノナル事實ニ付注意ヲ喚起ス
「ヤンセン」(祖國俱樂部)

獨逸陸軍ノ今次ノ成果ハ其ノ優秀ナル組織及卓越セル機械化部隊
並ニ全面的戰時体制ノ保持ニヨルモノナル處右ニ關スル我カ陸軍
ノ状態ハ如何予自ラノ短期召集ノ際ニ於ケル^體經驗ニ^照セハ各部ノ
組織ハ甚タ不充分ナルモノト云ヒ得ヘク予ハ之等ニ關シ根本的變
改ノ加ヘラルヘキヲ希望ス(中略)豫備將校ヲ利用シ下級將校ノ
運用ヲ擴大スルト共ニ省部付將校及下士官ハ民間人ヲ以テ置キ變
フヘキコトヲ提議ス(中略)全蘭印社會ハ戰時体制下ヲ採ルノ要
アリ當領ニハ各層ノ協力及明確ナル統計的見解、組織能力並ニ
イニシアチブ」等ニ於テ缺陷アルニ付之等ノ權限ハ當然一元化
サルヘキナリ尙政府ハ青年ヲシテ來ルヘキ難局ニ處セシムヘク之
ニ訓練ヲ施スノ要アルト共ニ支那入、土人層ヨリモ^階ノ高級下級
階級ヘノ參加ヲ多數許可スヘキナリ

(以上)

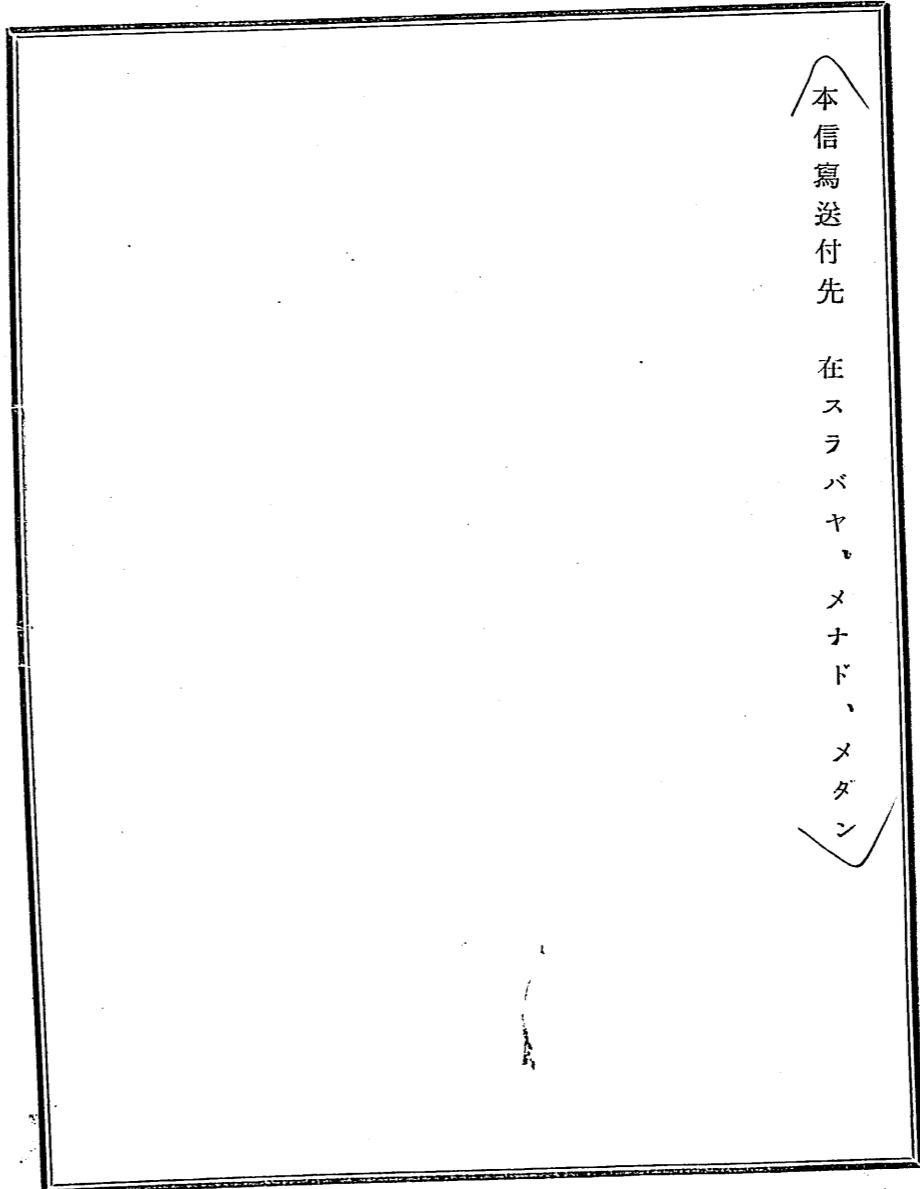
	發信用	執務用
主信	2	3
附	甲	2
	乙	1
	丙	3
周	丁	
備考	分類 A 6. 1-6	

要寫部
懸案

公文書案	電報有之タルニ付御參考マテ右茲ニ送付ス	本件ニ關シ今般在ハタチ予有藤 統領事ヨリ別紙寫ノ通	名件	國民各派会ニ於テ陸軍追加豫算案對議模樣ニ關スル件
			受人信	阿部海軍口務局長 武藤陸軍口務局長
外務省	有	附屬	名件録	記諸外國内務省陸軍部 和蘭部 陸軍閣僚
			受人信發	西 外務次官 歐亞局長
管主 歐亞局長		任主 第三課長	歐三普通令第三九五四號	昭和十五年九月四日
文書課發		昭和十五年九月五日	發送済	淨書
正校(原稿)		昭和十五年九月三日	起草	別紙

文書課長

本信寫送付先 在スラバヤ、メナド、メダン



電報 (分類 46,001-6-1)

第三部長

普通公第一二一號

昭和十五年九月二十六日

在メナド

外務大臣 松岡洋右殿

領事 野々村雅二

大東地方知事ノ「メナド」地方視察ニ關シ報告ノ件

在マカツサル「大東地方知事 *de Hage Ninkelman*」ハ九月

十七日ヨリ同月二十九日迄「メナド」理事廳管内視察ヲ行フコトト

ナリタルガ九月十九日「メナド」ニ到着附近一帯ヲ視察ノ上二十一

日當地ヲ出發「サンギール」群島ニ赴キタル上歸任ノ豫定ナル趣ナ

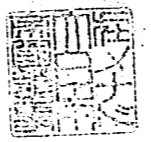
リ

因ニ同地知事ノ當地方訪問ハ知事就任後最初ノコトナリ

右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先、バ、ス、メ、臺、南、

在メナド日本領事館



15.10.14 文 収

公 信 案	(別紙昭和十五年七月三十日附在バタウィア領事來信書第九四號)
外 務 省	寫作成添付ノコト)
	本信送付先 陸軍省、海軍省

充
務

15.10.14

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

分類 16.0.0.1-6-1

昭和15 三〇七〇九 略

本 省 十月八日後發 八日夜着

歐、通

松岡外務大臣

齋藤總領事

第九二八號

往電第五〇五號ニ關シ

五日一九四一年度蘭印豫算案參議會ニ提出セラル要領左ノ通り

一、經常部歳出六億九百萬盾歳入五億六千四百萬盾

臨時部歳出二億五千萬盾歳入一億二千九百萬盾歳出超過一億三千

五百萬

二、陸軍關係經費二億三千萬盾

海軍關係經費一億七百萬盾

外務省

2

三、赤字補填策トシテ國防輸出税ノ据置所得稅會社稅財產稅ノ引上
ヲ行フ其ノ收入見積四千百萬盾（了）

外務省